

授業科目名	書写・書道入門(2100134)		
時間割名	書写・書道入門(33106)		
時間割担当	小竹光夫		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・3		

授業の目標・概要

科目名を「書写・書道」と併記はしているが、「書写」は中学校の国語科に、「書道」は高等学校の芸術科に位置付けられている学習である。本講義では、文字を中核とする学習が、どのような系統を辿るかについて通覧しようとはしているが、基軸となるのは、国語科書写への理解を深め、学習指導の観点や教材分析についての基礎技能を学ぶことである。そのため、基礎的・基本的な書写技能・技術を習得した上で、指導者として授業を進行できる力をつけていくことを目標としている。

学習の到達目標

文字の活用を日常生活の場面に適合させながら意識化できることが「書写・書道入門」での目標となる。教壇に立つ授業者としては、単なる自己の実技力向上を求めるのではなく、幅広い書写環境の整備や書写力の活用を考えていかなければならない。そうした意識を持つことが、効率的で日常に生きて働く書写の力の習得を促すことへの始まりとなる。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げる内容に関する実証的なドリル（簡単な実技的試み）を行う。

授業計画

- 第1回 日常生活の中に生きる文字を知る（文字環境全般）
文字環境への幅広い視点と問題点の分析力を養う。
- 第2回 日常生活の中に生きる文字を知る（印字・活字の影響）
生徒は、どのような文字・書写環境の中にあるかを知る。
- 第3回 日常生活の中に生きる文字を知る（手書き文字）
具体的な書き方について分析し、解決の方法を探る。
- 第4回 生徒の日常書写の実態の観察と分析を行う
1～3の学習をまとめ、児童・生徒の日常書写についてまとめる。
- 第5回 学校の中に生きる手書き文字を考える（記録・メモ）
生徒を中心に手書き文字の活用場面について学ぶ。
- 第6回 学校の中に生きる手書き文字を考える（板書の基礎）
効果的な板書について考え、書き方の基礎を学ぶ。
- 第7回 学校の中に生きる手書き文字を考える（板書の応用1）
板書の在り方や具体的な方法を知る。
- 第8回 学校の中に生きる手書き文字を考える（板書の応用2）
具体的な板書例を分析し、効率的な板書について理解を深める。
- 第9回 学校の中に生きる手書き文字を考える（板書の発展）
単元や題材を選び、具体的な板書を試みる。
- 第10回 学校の中に生きる手書き文字を考える（掲示物）
効果的な掲示物について考え、作成する。
- 第11回 「書写」の位置付けと、教育課程上の構成を知る
それぞれの内容や目標の違いを知り、そのことによって生じる現代的諸問題について知識を広げる
- 第12回 「書写」の果たす役割と、実際の学習場面について考える1
「習字」という語を巡りながら、我々が関わる「書写」が求めている力について考える。
- 第13回 「書写」の果たす役割と、実際の学習場面について考える2
学習指導上の工夫について、基礎的な知識を持つ。
- 第14回 興味関心を高める「書写」の学習について学ぶ
さまざまな事例に触れ、学習者が主体的な学びを行う道筋について考える。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に、授業に対する理解度を観察し評価していく。（50％）学習記録ノート(学生成成)の緻密さを評価する。（30％）授業内での口頭発表を観察し、理解度やまとめる力について評価する。（20％）

準備学習・復習及び授

文部科学省編『小学校学習指導要領 国語編』、『中学校学習指導要領 国語編』を準備し、学習の展開と合わせて理解を深めていくことが望ましい。ただし、『学習指導要領』は基本的な項目が提示されているだけなので、それぞれの『解説』を準備し、基本的な理解を進めておくことが好ましい。参考図書等については教員側で紹介するので、可能な限り入手して、積極的な学びを展開することを期待したい。

履修上のアドバイス及

文字に関して興味関心を抱くこと。そして、何にも増して「教えるために学ぶのだ」という教員になるための基本姿勢を習得して欲しい。

教材・教科書

試書用の鉛筆（HB～B）の準備が必要であるが、それ以外には特に準備物はない。学習に必要な資料・教材については、毎時間、教員側で用意して配布する。

参考書

各校種に応じた学習指導要領、ならびに解説を準備し、読解しておくことが求められる。学習事項・内容を拡大していく上での参考書類については、各授業の中で紹介する。